

皇學館 学園報

第81号
令和元年12月



■注目記事

- カルチャー&スポーツ 2面
出雲駅伝15位、全日本大学駅伝19位
母校のたすきつなぐ
- アカデミック 3面
過疎支援に経年変化の視点を
—現代日本社会学部・大井准教授らの研究グループ
- 地域連携 3面
チャーミングな人であれ
—いるトク魅力プロジェクト
- グローバル 4面
学生が伊勢図書館で
英語絵本の読み聞かせ

- 5面
内定者ボイス
倉志会が夏季特別講座を開講
- 6面
高中トピックス
高中で家庭に感謝する日の行事
- 7面
令和最初の学園祭が
成功裏に終わる
- 8面
アクティブスチューデント
大学薙刀部男子が全国3位 ほか

発行・編集 学校法人皇學館 企画部
TEL 0596-22-6496・8600

大学
大学院 | 文学部 教育学部
専攻科 | 現代日本社会学部
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL 0596-22-0201(代) FAX 0596-27-1704

高等学校・中学校
三重県伊勢市楠部町138
[高校] 〒516-8577 TEL 0596-22-0205(代)
[中学] 〒516-8588 TEL 0596-23-1398(代)

御大礼奉祝式を挙行

「即位礼正殿の儀」を五日後に控えた十月十七日、本学記念講堂において「御大礼奉祝式」が挙行された。内宮参拝を終えた学生、教職員およそ五百名は厳粛な面持ちで式に臨み、即位の大礼を寿ぐとともに令和の御代の安寧を願った。

即位の大礼を祝し、聖寿万歳

十月十七日、午前中に内宮 一時過ぎに始まった式典では参拝し、本学記念講堂での 小串和夫副理事長が登壇し、御大礼奉祝式に臨んだ出席者 「われら一同この慶事に際会たち。厳かな雰囲気の中、十 する感激に、弥建学の精神

天皇陛下と心をひとつに

続いて河野訓学長による記念講話が行われた。河野学長は御代替りの主要な儀式について、「讓位に關して」「踐祚の式」「即位礼」「大嘗祭」と項目を立て、パワーポイントを使って解説された。天皇御一代一度の重儀である

学生それぞれに「学び」と「気づき」

「齋田点定の儀」に用いられた亀甲の写真等も併せて紹介された。さらに、即位後朝見の儀の天皇陛下のおことばの中で「常に国民を思い、国民に寄り添いながら」「国民の幸せと国の一層の発展、そして世界の平和を切に希望します」との部分に言及し、「国民が幸せでない状況、国に発展がない状況、世界が平和でない状況でございだからこそその御言葉ではないか」と話された河野学長。学生に考えてほしいこととして、「切に希望します」をどう受け止めるか。そうでない状況に対して、そうならないようにと望まれている。その御言葉を大切に思い、実現しようとする心を私たちは持つべきではないか」と訴えた。



資料をもとに主要な儀式について解説する河野学長

奉祝の詞

大内山に瑞雲たなびく今月の良辰に、御即位の盛典が挙行せられますことは、まことに慶祝の極みであります。

陛下におかせられましたは、皁月の朝日、皇室の大典範の定めるところにより、国民均しくご敬愛申し上げる上皇陛下の大御蹟を受け継ぎなされ、来たる二十二日を以て、天津日嗣の高御座に臨まれ、第百二十六代の大御位に坐された旨を内外に宣明せられます。さらに、来月の中の卯の日に、畏くも大嘗祭をご親祭遊ばされます。

これらの大礼を始めとする即位にともなう諸大儀を、皇室の伝統を重んじられ、大御手振りもうるわしくご齋行相成られる趣は、高天原の風儀を、国民にお示し給はる無上の大礼であります。

われら一同此の慶事に際会する感激に、弥建学の精神を发扬し、国運の隆盛に精励することを期するものであります。

茲に全学を挙げて即位の大礼を祝し奉り、謹みて宝祚の無窮を祈念し、聖壽の萬歳を寿ぎ申し上げます。

令和元年十月十七日

学校法人皇學館 副理事長 小串 和夫

関東、甲信越から東北へかけて甚大な被害をもたらした豪雨により被災された皆様にお見舞い申し上げます。

学校法人皇學館



倉田山
春秋

台風十九号により、伊勢市内でも五十鈴川の支流で水かさが増し、床上浸水の被害が出た。この台風は、関東甲信越から東北へかけて甚大な被害をもたらした。未だ復旧のめどが立っていない地域もある。心からお見舞いを申し上げます。そのニュースの中で「越水」という用語が気になった。水があふれることを「溢水」と言うのは知っていたが、わかりやすさを考慮して、今は「越水」というらしい、と思った。パソコンでも変換されないし、あふれるという意味の「溢」が常用漢字に含まれていないから、言い換えて作られた新しい用語だろうと憶測したのだ。

▼ところが、気象庁のホームページで調べてみると、気象用語では、堤防のある所で起こるのを「越水」、堤防のない所で起こるのを「溢水」と区別していたのだという▼現在は、「越水」「溢水」を使用せず、すべて「氾濫」とすることになっている。ただ、今回は極めて特別な場合であることを反映して「越水」が用いられた▼防災の専門家に堤防を越えていることが明確に伝わり、少しでも人々の生命財産を守ることにつながったのだと信じている。

Culture & Sports
カルチャー&スポーツ

修学支援新制度(給付型奨学金・授業料等減免)の対象機関になりました【大学】

令和2年4月から始まる国の新たな修学支援制度の対象機関として、本学が文部科学大臣より認定されました。新たな制度はこれまでの日本学生支援機構の給付奨学金に比べて対象者の範囲と支給額が拡充されます。また併せて、所定の家計所得に応じて授業料減免の対象ともなります。申込みの際の手順及びその要件の確認方法などについて、以下の通りご案内を申し上げます。

●在学生の新しい制度申込みについて

本制度は令和2年度に本学1~4年生に在学し、家計基準(収入金額・資産額)及び学力基準(学業成績・学修意欲)などの条件を満たす学生が対象となります。

令和2年度に進級予定の学生を対象とした募集(先行受付分)は11月末をもって受付が終了しました。申込みをしていない学生は、令和2年度に実施する在学採用(4月及び9月に受付予定)に申し込んでください。申込時期になりましたら、学生担当掲示板で案内しますので、以下の手順により事前に準備しておいてください。

- (1) 文部科学省の特設サイトから、新しい制度の概要を調べる。
▶「高等教育の修学支援新制度」
http://www.mext.go.jp/kyufu/index.htm
- (2) 日本学生支援機構(JASSO)のサイトから、支給額等が試算できるツールを利用。自分が対象になりそうか確認する。
▶「進学資金シミュレーター」
https://www.jasso.go.jp/shogakukin/oyakudachi/shogakukin-simulator.html
- (3) 保証人(保護者)と給付奨学金の申込みについて相談する。
奨学金の申込みには、申込者本人と生計維持者(原則父母)のマイナンバーの提出が必要です。

三重県護国神社で平和を祈る書道イベント

9月21日、三重県護国神社にて「世界平和の祈り書道奉納イベント」が開催され、皇學館高校書道部が本学出身の書家・伊藤潤一さん、伊勢市出身の尺八奏者・竹内洋司さん、歌手のモジプールさんと共演させていただいた。

書道部からは3年生の家田椎梨さんと小林美珠希さんが竹内さんの尺八に合わせ「以和為尊」の文字を揮毫。家田さんは「この言葉には皆仲良く争わないのがよいという意味や、しっかり議論しなさいという意味があります。皆が仲良く、良い作品を作るために議論しながら活動している私たちのように、世界中が仲良く平和であって欲しいとの思いを込めて書きました」と挨拶した。また伊藤さんは「平和」の文字を迫力あるパフォーマンスで揮毫し、見る者を圧倒した。全国で一斉に平和を祈るこのイベントは全員笑顔の記念撮影で締めくくられた。

山本寛斎氏が講演

伊勢市との連携事業の一環として10月17日、デザイナーの山本寛斎氏が来学。「世界に挑め! 山本寛斎の生き方」と題し講演を行った。デザイナーとしてどう人生を切り開いていったかを熱く語った山本氏。「自分がどうなりたいかは自分で決める」「ほしいものは何が何でもとる」といった力強いメッセージに、学生たちは耳を傾けていた。講演後は鈴木健一伊勢市長を交え、学生たちと意見交換も行われた。



2年連続2回目の出場となった出雲駅伝。出雲大社の鳥居を背に、スタートを切る副将の上村選手(右)

母校のたすきつなぐ

本学駅伝競走部が十月十四日開催の第三十一回出雲駅伝で十五位、十一月三日の秩父宮賜杯第五十一回全日本大学駅伝は十九位でゴールした。両大会とも目標順位には届かなかったものの、執念の走りでも母校のたすきをつなぎ、意地を見せた。

川瀬選手が全日本二区で区間新

二年連続二度目の出場となった出雲駅伝は目標を十位以内と高く掲げ臨んだが、二十一チーム中十五位(二時間十七分三十三秒)でゴール。三年連続三度目の全日本大学駅伝は十五位以内をめざすも結果は二十五チーム中十九位(五時間三十三分二十四秒)と涙を飲んだ。

タイムだけを見れば昨年より速い。出雲駅伝は一分二十二秒、全日本大学駅伝は一分四十二秒



区間新を記録した川瀬選手

沿道の声援が大きな力に

「関東勢がきつちり仕事をしていた。強豪校に追い抜かれ、リズムをつかむことができなかつた」と語る日比勝俊監督。主将の平野恵大選手(現日4)は「漠然と目標を掲げていた。どうしても目標を達成できるのか考え、

具体的練習、行動に落とし込んで準備すべきだった」と肩を落とした。一方で「ポテンシャルはあるチーム」ときつぱり。「エース級の人材が何人もおり、まとまればすごいチームになる。いや、そう作り上げていってほしい」と次の主将に望みを託した。そして「苦しい時、沿道から聞こえる声援が大きな力になった。とくに全日本は地元ということで本当にたくさんの方が応援してください、ありがたかった」と感謝の気持ちを語った。



大声援の大学前を通過する金谷選手(右)

十二月一日には来秋の出雲駅伝への出場権をかけた「東海学生駅伝」が開催される。出場するには「優勝」あるのみ。雪辱に向けた挑戦の日が始まる。

秩父宮賜杯 第51回 全日本大学駅伝対校選手権大会

順位	大学名	記録
1	東海大学	5:13:15
2	青山学院大学	5:14:59
3	駒澤大学	5:15:04
4	東京国際大学	5:15:35
5	東洋大学	5:15:40
6	早稲田大学	5:17:04
7	國學院大学	5:17:34
8	帝京大学	5:19:38
9	順天堂大学	5:19:46
10	中央学院大学	5:20:06
11	法政大学	5:20:14
12	立命館大学	5:21:21
13	城西大学	5:21:29
14	日本体育大学	5:21:46
15	明治大学	5:23:51
16	拓殖大学	5:24:06
17	関西学院大学	5:29:51
18	京都産業大学	5:33:18
19	皇學館大学	5:33:24
20	札幌学院大学	5:35:08
21	愛知工業大学	5:35:34
22	環太平洋大学	5:40:32
23	新潟大学	5:41:01
24	第一工業大学	5:43:13
25	東北福祉大学	6:04:48
全日本大学選抜		5:22:54
東海学連選抜		5:35:26

区間	選手	記録
1区	上村直也(教育3)	28:20
2区	川瀬翔矢(現日3)	32:04
3区	山下慧士(国史4)	36:29
4区	鈴木翔也(教育2)	36:25
5区	市川駿希(教育2)	38:53
6区	平山寛人(教育3)	41:37
7区	平野恵大(現日4)	55:03
8区	金谷智顕(教育4)	1:04:33

◆：皇學館新 ●：区間新記録

第31回 出雲全日本大学選抜駅伝競走

順位	大学名	記録
1	國學院大学	2:09:58
2	駒澤大学	2:10:06
3	東洋大学	2:10:09
4	東海大学	2:10:18
5	青山学院大学	2:10:51
6	立命館大学	2:13:11
7	帝京大学	2:13:49
8	順天堂大学	2:14:04
9	拓殖大学	2:14:18
10	法政大学	2:14:20
11	中央学院大学	2:14:36
12	北海道学連選抜	2:16:17
13	I V Y 選抜	2:16:31
14	関西学院大学	2:17:06
15	皇學館大学	2:17:33
16	北信越学連選抜	2:17:36
17	愛知工業大学	2:18:45
18	広島経済大学	2:19:02
19	京都産業大学	2:19:54
20	第一工業大学	2:20:34
21	東北学連選抜	2:20:37

区間	選手	記録
1区	上村直也(教育3)	25:16
2区	川瀬翔矢(現日3)	16:39
3区	桑山楓矢(現日3)	25:45
4区	平野恵大(現日4)	18:49
5区	市川駿希(教育2)	19:04
6区	山下慧士(国史4)	32:00

◆：皇學館新

東 翔陽選手(国史4)がベスト16

全日本学生柔道体重別選手権大会



全国大会出場常連校から、さらなる高みへ

大学生の各階級日本一を決める個人戦「全日本学生柔道体重別選手権大会」が九月二十八日、二十九日に秋田県立武道館で開催され、本学柔道部の東翔陽選手(国史4)が60kg級でベスト16に食い込んだ。同大会には男子九名、女子一名が出場したが、過去最高となった昨年の成績には届かなかった。

【大会結果】

全日本学生柔道体重別選手権大会(9/28・29)	
東翔陽(国史4)	60kg級 第9位(ベスト16)
全日本学生柔道体重別団体優勝大会(10/19・20)	
男子団体	初戦敗退

また、十月十九日、二十日にベイコム尼崎総合体育館で行われた全日本学生柔道体重別団体優勝大会には男子団体が出場。九州の鹿屋体育大学に敗れ、二回戦進出はかなわなかった。佐藤武尊部長は「今大会の結果を真摯に受け止める。また伊勢に帰って腕立て伏せ」からやり直すだけ」と語った。

ご挨拶

平素より本学園の教育・研究活動に対し、格別のご高配を賜り、謹んで厚く御礼申し上げます。またこの度は、本学強化指定クラブ(駅伝競走部・柔道部)全国大会出場に際しまして、多くの皆様から物心両面にわたるご支援を賜りましたこと、重ねて御礼申し上げます。今後とも相変わらぬご指導とご支援を賜ります様、お願い申し上げます。

学校法人皇學館 理事長 佐古一 例

強化指定クラブ(駅伝競走部・柔道部) 全国大会出場協賛金納入状況報告 R1.11.30現在

区分	件数	協賛金(円)
宗教界	47	1,746,000
企業	36	2,000,000
館友	279	1,644,000
尊の会保護者	2	6,000
一般	35	344,000
本法人関係	13	579,000
合計	412	6,319,000

Academic アカデミック

齋藤平教授が三重県私学総連合会「優良教職員表彰」を受ける

本学教育開発センター長で文学部教授の齋藤平氏が三重県優良教職員として三重県私学総連合会より表彰された。



三重県及び14の高等教育機関が加入する「高等教育コンソーシアムみえ」では地域貢献部会長を務め、本学においては平成26年度採択「地(知)の拠点整備事業」の事業推進責任者として尽力されてきた齋藤氏。学習管理システム(LMS)の有効活用による授業改善やCLL活動における効果的な制度設計・実践を通して連携自治体と厚い信頼関係を築いてきたこと、日本酒プロジェクトでの6次産業化モデルの構築等、学内外で顕著な成果を上げていることが評価された。

令和元年度 神社関係者懇談会・協議員会を開催



「令和元年度神社関係者懇談会」及び「協議員会」が9月17日、「志摩観光ホテル ザクラシック」にて合同開催され、全国より156名にお集まりいただいた。

開宴に先立ち小串和夫副理事長が今上陛下御即位のお祝いを申し上げ、神社界より格別のご支援を賜っていることに対し謝辞を述べた。続いて河野訓学長が「研究・教育に関する様々な取組みが成果を上げていることを報告した。その後ご来賓を代表して鷹司尚武神社本庁統理より本学に対する期待のお言葉を賜った。懇親会では小松揮世久神宮大宮司より乾杯のご発声があり、終始和やかな雰囲気の中、最後は田中恒清神社本庁総長のご挨拶にてお開きとなった。

「神嘗奉祝祭」初穂曳行事に学生約110名が参加

令和初の初穂曳行事が10月15日に行われ、本学から学生約110名が参加した。



秋晴れとなった当日、黒い法被を身にまとった皇學館奉曳会(学生有志による木遣り団体)の学生9名は采を振り、曳き手の学生たちをリード。「新しき年風和らぎて豊の宮へと曳く初穂「祝いめでたの令和の御代に初穂納めるこの嘗」など令和オリジナルの木遣り歌を朗々と歌い、盛り上げた。曳き手の学生たちも綱を上下に揺らし、左右の綱を中央に寄せ合う「練り」をしながら元気いっばいに、心を込めて奉曳した。参加した学生は「伊勢の伝統行事である初穂曳を体験できる貴重な機会となった。『エンヤー!』と大きな声を出しながら綱を曳くのはとても楽しく、一体感を感じた」などと感想を述べた。

人事異動

令和元年11月1日付

配置換 附属図書館事務室事務長 石橋 弘考 (旧職: 学生支援部学生担当課長)

兼務 学生支援部学生担当課長 山邊 政彦 (現職: 総務部情報担当課長)

「住み慣れた地域で暮らし続けたい」思いに込めようと、本学現代日本社会学部の大井智香子准教授を代表とする日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究(B)研究グループ(九州大学院・高野和良教授、日本福祉大・小松理佐子教授、福井県立大・永井裕子助教)が「関係性の貧困」に着目した地域診断指標の作成に取り組んでいる。

これまで国は人口減少率や高齢者比率、財政力をもとに過疎地域を特定し、対策を行ってきた。しかし大井准教授は最も問題視すべきは人口が減少していくことのみでなく、地理的・環境的・人為的関係性が断ち切られていく「関係性の貧困」であり、経年変化に即した支援策が必要と話す。

例えば岐阜県高山市高根地区では独居高齢者の大半が冬季になるとファミリーホームへ移り住み、共同生活を送る。この集団生活を支えるものとして住民同士や住民と施設をつなぐ「キーパーソン」の存在が浮かび上がってきた。しかし、「キーパーソン」が地域から

転出した後は同様の支援を継続することが困難になったという。大井准教授らは一刻一刻と変わる状況を適切に見極めてこそ最適な支援方法を探れるとして地域支援の前提となる地域診断に焦点を当て、国とは異なる質的診断指標の開発を試みた。数年後をめぐりに地域福祉を担う自治体や社会福祉協議会の職員に提案したい。集落の状況に応じ、充足すべき要因と既存の資源を組み合わせることで過疎化を食い止めるモデルが構築できると考えている」と大井准教授。各地の事例や対処法を盛り込んだ研究の途中経過は今年度中にミネルヴァ書房から学術書として出版される予定だ。

「これまで国は人口減少率や高齢者比率、財政力をもとに過疎地域を特定し、対策を行ってきた。しかし大井准教授は最も問題視すべきは人口が減少していくことのみでなく、地理的・環境的・人為的関係性が断ち切られていく「関係性の貧困」であり、経年変化に即した支援策が必要と話す。



「過疎地のニーズに対し、いかに充足させられるかがポイント」と話す大井准教授

過疎支援に経年変化の視点を 関係性の貧困に着目した実態把握・生活支援 大井准教授らの研究グループ

Regional Collaboration 地域連携

十一月六日水曜日の午後六時、うじやまだ駅前横丁の一面にある「皇學館大学まちなか研究室」には母校の魅力と伊勢志摩地域の可能性に気づくプロジェクト、「いるトク魅力プロジェクト」(以下「いるトク」)のメンバーが集まっていた。「いるトク」が始まったのは平成二十八年十二月。以来毎週開催し、この日までの延べ参加者は三四人、七十二回と息の長い活動を続けている。

主催は本学非常勤講師の堀田明美先生。三十一年に及ぶCA実務経験があり、その後、修士としての研究内容でもある「日常礼法」の大切さを実感。「いるトク」を「人との接し方のセンスと感性を磨く場」として、産官の社会人と共に、接遇を学ぶセミナーやキャリアデザイン、哲学カフェ、ビブロフィリアなど多彩な内容を展開してきた。

その狙いについて、堀田先生は「チャームポイントであることは日常のマナーと大人の嗜みとして人とかかわるための第一歩。福沢諭吉も『学問のすすめ』で笑

「いるトク」に参加して約一年半になる堀田みずきさん(国文学部)は「自分の学科以外の情報や異なる見方を知ることができて楽しい。社会で活躍する目上の方と接しても以前より緊張しなくなり、就活する上でもとても勉強になりました」と話した。なお、堀田先生は就職も内定し、「今後は自分から積極的にコミュニケーションをとっていききたい」と抱負を語っていた。堀田先生の思いは確実に学生に伝わっているようだ。

「いるトク」に参加して約一年半になる堀田みずきさん(国文学部)は「自分の学科以外の情報や異なる見方を知ることができて楽しい。社会で活躍する目上の方と接しても以前より緊張しなくなり、就活する上でもとても勉強になりました」と話した。なお、堀田先生は就職も内定し、「今後は自分から積極的にコミュニケーションをとっていききたい」と抱負を語っていた。堀田先生の思いは確実に学生に伝わっているようだ。



うじやまだ駅前横丁「皇學館大学まちなか研究室」にて水曜18時~19時30分に活動している(今学期より隔週。12月で4年目に入る)。堀田先生は前列中央

魅力的 チャーミングな人であれ いるトク魅力プロジェクト

絵本の読み聞かせが好評

親子ふれあい本の読み聞かせ活動

三重県民共済生活協同組合が行っている20周年事業の一環として、本学教育学部有志による絵本の読み聞かせサークル「親子ふれあい本の読み聞かせ活動」に対し多大なるご支援とご寄付をいただいている。このご寄付を有効活用すべく、平成30年6月より伊勢市ハートプラザみその内にある「御園こども広場」において、乳幼児向けの読み聞かせを月1回のペースで行ってきた。本年11月は『パンダンス』など話に合わせて体を動かす絵本を中心に選書。子どもたちは大きく伸びをしたりパタッと倒れたり、絵本の世界を体全体で楽しむ様子が見られた。



読み聞かせをする学生

ちゃん」の作者である、絵本作家のやぎたまこさんをお迎えして、トークショーを開催する予定だ。

同サークルの顧問を務める教育学部・中條敦仁准教授は「『親子ふれあい本の読み聞かせ活動』が伊勢市の子育て支援の一助となるよう、今後も努力を続けていきたい」と話し、「今後は御園こども広場での読み聞かせ活動を継続しつつ、他の地域に向けても広めていく予定です」と語った。

手話部が 明倫園児と手話の歌披露

第3回 全国手話言語市区長会 手話劇祭

12月1日にシンフォニアテクノロジー響ホール伊勢で開催される「第3回全国手話言語市区長会 手話劇祭」。



そのオープニング曲を本学手話部と明倫保育所の園児たちとで披露することになった。明倫保育所では4・5歳児を中心に平成25年から手話を保育に取り入れている。これを知った伊勢市障がい福祉課の担当者が手話部に一緒に参加を持ち掛け、実現した。手話部部長の古川朋佳さん(現日3)は「このような貴重な機会をいただき、非常に嬉しく思います。これをひとつのステップとして、手話部をさらに盛り上げていきたいです」と意気込みを語った。(11月25日現在)

Global グローバル

伊勢高校生徒と合同で 出前講座を実施

伊勢市立東大淀小学校の1・3・5・6年を対象に本学教育学部生物学ゼミの学生18名と三重県立伊勢高等学校の生徒8名が10月19日、合同の出前講座を実施した。



観察に夢中の児童たち

出前講座は児童が昆虫を中心とした生き物の観察や実験を通して、実感を伴った理解を得ることを目的としている。今回の出前講座では新たな取り組みとして高校生が参加。初めて教える立場となり授業開始直後は緊張していた高校生も、大学生と協力して児童に説明する中で次第に笑顔になり、楽しそうに接する様子が見られた。参加した高校生は、「虫嫌いの児童が「出前授業に参加して虫好きに変わったことがとても嬉しかった」と指導することのやりがいを語った。



上／英語の手遊び歌を楽しむ参加者たち
右／ジェスチャーを交え、英語でわかりやすく読み聞かせをする平井さん(右)と桂さん

またこの日は吉本美優菜さん(教育3)、小林遊人さん(コミ3)、望木大輔さん(同)が英語の手遊び歌である「Head, Shoulders, Knees & Toes」を披露。子どもたちも一緒に頭や肩、ひざなどにテンポよく手を当てながら歌って踊り、歓声を上げていた。

「英語えほんおはなし会」が伊勢市立伊勢図書館にて十月十九日に行われ、本学学生五名が英語絵本の読み聞かせと英語の歌で子ども二十四名と保護者二十名を楽しませた。

同図書館では毎週土曜に絵本を読み聞かせする「おはなし会」を開いており、本学学生有志の絵本サークルが平成二十二年から第一土曜を担当している。平成二十七年、伊勢市に縁のあるジョイス・津野田幸子氏(ハワイ大学コミュニケーション学名譽教授)が同図書館に英語絵本を

寄贈したのを機に、英語による読み聞かせが「おはなし会」に加わり、コミュニケーション学部の川村一代准教授指導のもと毎月、学生が読み手として参加している。

この日はジョイス氏を招いての「おはなし会」で、平井康太さん(コミ4)が「Go Away, Big Green Monster!」を、桂なつみさん(教育3)が「Five Little Monkeys Sitting in a Tree」を読んだ。二人はジェスチャーや声色を工夫し、日本語をほぼ使わずに絵本の内容を説明。子どもたちは笑ったり、発音をまねして楽しんでいました。

皇學館DAYを開催



9月16日、三重県総合文化センターにて皇學館 DAYを開催した。14時に開設した大学・高校・中学校の各ブースにはそれぞれ相談者が訪れ、入試や制度、カリキュラムについて熱心に質問していた。16時から皇學館高校吹奏楽部による第12回定期演奏会津公演が開かれ、約1700名の観客を魅了。皇學館 DAYでは初となる日本舞踊のパフォーマンスをはじめ、歌あり、ダンスありの楽しいひと時を過ごした。



なお、次年度の皇學館DAYは「MieMu」の愛称で親しまれている三重県総合博物館を会場に加え、生物学ゼミの実験教室や雅楽部による演奏、幼児教育ゼミによるバルーンアート体験など多彩なイベントを取り入れる予定だ。

学生、教職員(大学自衛消防隊)が避難訓練



10月10日のIV講時終了後、学生・教職員を対象に防災訓練が行われた。緊急地震速報を受け、学生は教員や大学自衛消防隊の誘導で第一グラウンドに避難。続いて大学自衛消防隊消火班による水消火器訓練が実施され、消火班による水消火器使用の手本を見た後、学生約10名が実際に水消火器を体験した。5号館から避難した学生は「地震、火災が起こると想定した訓練でも避難に時間がかかったので、突然災害が起きた場合は落ち着いて行動することが大切だと思う」と語った。

また、大学自衛消防隊はシナリオのない無線訓練、要救護者運搬訓練を行い、被災後の突発的な事象に対応できるよう独自に訓練を行った。



会を仕切る湊さん

「若者の漁業への就職を促進するには」とのテーマに基づいて行われた討論では「自分の力のなさを痛感」という。「語学力はもちろんです、論理的に考える力が圧倒的に足りない。根拠の薄い意見を言ってもまったく説得力がないんです。『漁業がなくなってもいいのでは』といったタブーに切り込む発言や姿勢にも刺激を受けました」。

この経験を共有したいと、さつそくゼミで報告会を開くと話す湊さん。「就職活動は全国大会他大学のレベルを知り、いろんな人と交流して、自分を見つめ直す機会を早く持つべきだ」と、実り多き大会参加を振り返った。

伊勢志摩サミットの開催成果を次世代につなげようと始まった「大学生国際会議 in 三重」。第四回となる今年は十一月二日から四日にかけて志摩市を会場に行われ、東京大学や慶應義塾大学、三重大学など十三の大学から計五十一名(うち留学生二十一名)が集った。本学からは四名の学生が参加。その一人、湊裕大さん(現日3)は運営をサポートする学生委員として交流イベントの企画やスケジューリング、行程表の英訳といった裏方の業務をこなしながら、通常の討論会にも加わった。「天然魚を獲る漁業に持続可能性はあるのか」



県内だけでなく、首都圏の大学生や留学生と交流できる貴重な機会となった

「自分を客観視できた」 UNICOM 2019 第4回 大学生国際会議 in 三重

森 清香さんが優勝 第20回 高校生英語スピーチコンテスト



入賞者には表彰状と楯、副賞の図書カードが贈呈された

本学文学部コミュニケーション学科主催の第20回高校生英語スピーチコンテストが10月20日に開催され、桑名西高校2年の森清香さんが優勝に輝いた。

参加する中で見事1位となった森さんは「毎日先生に練習を聞いてもらい、発音やジェスチャーを教えてもらった。全力を出し切りどんな結果になってもいいと思っていたのでとても嬉しい」と語った。

審査委員であるコミュニケーション学科のクリストファー・メイヨー准教授は「皆さんのスピーチを聴いて審査員一同、深い感銘を受けた。英文を自分なりに解釈した上で暗唱の練習を重ね、多くの人々の前で発表するための準備、努力を通して皆さんの英語力は確実に伸びたと思う」と感想を述べた。

- | | | |
|-----|-----|--------------------------|
| 入賞者 | 第1位 | 森 清香さん(桑名西高校2年) |
| | 第2位 | 平尾 みく菜さん(セントヨゼフ女子学園高校1年) |
| | 第3位 | 海野 沙彩さん(セントヨゼフ女子学園高校2年) |

本学中国人留学生2名が 日本語スピーチコンテストで受賞!

10月27日に開催された「第22回鈴鹿大学外国人日本語スピーチコンテスト」に本学コミュニケーション学科4年の于晴さんと国文学科4年の陳嘉励さんが出場。



于晴さん



陳嘉励さん

111名の応募者の中から本選進出者11名の中に選ばれ、于さんが「ダイシン物流 ダイバーシティ特別賞」を、陳さんが「鈴鹿大学同窓会 鈴風会賞」を受賞した。

于さんは、来日前と後での日本の印象の違いなどを「百聞は一見に如かず」との題目で発表。陳さんは「私の父」と題し、父親への想いの変化を発表した。

受賞したことを受け、于さんは「何度も先生の研究室に通い、発音などを教えていただきました。先生のご指導がなければ、この賞を取ることはできなかったと思います。これからも日本語の勉強や自分の生活に一生懸命取り組み、後悔しないよう頑張りたいです」と語り、陳さんは「以前、スピーチコンテストで失敗した自分を乗り越えようと思い、今回挑戦しました。賞をとることができ、驚きとともに喜びと感謝の気持ちでいっぱいです」と話した。ふたりの一層の活躍を期待したい。

内定者ボイス

一般企業編

早めの準備が力ギともいえる就職活動。今回は、一般企業の内定を獲得した先輩たちの声を紹介します。

- ①志望理由
- ②成功の秘訣・工夫
- ③先輩へのアドバイス



中村孝文(神道)
〔内定先〕近畿日本鉄道株式会社



小林真亜莉(国文)
〔内定先〕スターバックスコーヒー ジャパン株式会社



金森有香(国史)
〔内定先〕リゾートトラスト 株式会社

①インターシップに参加した際、将来働く姿が最も明確にイメージできた。②一緒に受けた他学生の良いところを意識して吸収した。面接や履歴書に書けるネタを常に探した。③就活への意識や準備を早くすればするほど選択肢が増える。三年生の二月くらいまでに履歴書や面接のおおよその構成を完成させておくことが大事。

①アルバイトとしてスタバで働く中で、一杯のコーヒーを通してお客様とつながることに魅力を感じた。②面接では取り繕うことはせず、素直に自分の意見を言い、わからないことは無理に答えなかった。③面接では「会話を心がけて。アルバイトや様々な業界の説明会に参加することで刺激を受け、方向性が定まってくると思う。

①幼い頃から旅行が好きで、人の役に立つ仕事がしたかった。②早くから就活を始め様々な企業へインターシップに行っていたことで本当に自分がやりたい仕事は何か考えることができた。③早め早めの行動が大切。



山田健二(国文)
〔内定先〕三井物産株式会社

化に貢献したかった。②就職支援室の個人面談が役立った。履歴書添削、面接練習などとても大きなサポートだった。③インターシップを積極的に行うこと。人事の方や他大学の学生と交流することで様々な情報、刺激を得られ、それが自己分析や面接に生きてくる。



五十嵐愛実(現日)
〔内定先〕明和町社会福祉協議会

①両親が福祉の仕事に携わっており、福祉に興味を持った。②津市の「おしごと広場みえ」でも面接練習をさせていただき、そこで自分を見つめ直し、助言を受けたことで自信につながった。③ひとり



上蘭勇太(教育)
〔内定先〕株式会社百五銀行

①幅広い業種と関われる点。②就職支援室をフル活用したこと。就活に関

わることには全て基礎から教えていただける。③就活は進路を決めるだけのものではなく、経営者をはじめ色々な方と話す貴重な機会でもある。

倉志会が夏季特別講座を開講

中高教員をめざす学生たちを大学、館友教員一丸となって支えようと昨年十一月に発足した中高教員輩出プロジェクト「倉志会」が八月三日、四日の両日、本学にて夏季特別講座を開講した。講座には一年から四年まで学生八十名が参加。学長を筆頭に文学部長、教育学部長、現代日本社会学部部長、学生部長からの激励で始まった講座は現職の中高教員及び本学教員が講師となり、教職をめざす者としての心構えや教科別個別指導、模擬授業、指導案指導、教採対策、勉強方法に至るまで密度の高い授業を展開。熱気に包まれた二日間となった。



板書の仕方などを指導



模擬授業、指導案指導などの教採対策



学生による模擬授業



教職をめざすための全体講義

令和元年度 内定状況(中間報告) 四二五名が内定

内定率六四・六% (令和元年十一月一日現在)

十一月一日時点の就職内定率は六四・六% (内定者数四二五名/就職希望者六五八名) と昨年同時期より一・四ポイント上昇した。なお、教育・保育士専願者を就職希望者から除いた場合は八〇・〇%となる。

企業の採用意欲は旺盛で採用継続している企業も多く、内定辞退等の影響で追加募集する企業も出ていることから、進路を決定していない学生にもまだまだチャンスは残されている。一方で、入社を控える学生から不安の声を耳にすることもあり、九月に入社前フォローセミナーを行い、入社後を見据え、不安を感じるポイントを中心に多面的に解説した。

一般企業 企業希望者の内定は好調

企業の採用意欲は高く、した。また、二〇二一年卒(現十一月一日時点)で本学へは三三二名の就職活動に十一万二六〇社から十七万二一七社と多くの求人が寄せられた。十一月一日現在の企業・団体内定者数は二九五名。うち十八名が金融関係、二十名が農業協同組合に内定

教職関係 三重県では一〇六名が合格し 八年連続トップ

令和元年度教員採用試験(公立学校)の結果が発表され、本学からは一七名が合格を果たした。七名が合格を果した。少子化の影響を受け全国的に採用抑制期に入

出すのではなく、IDA インターシップ等を活用しつつ、早くから情報収集に取り組むことが重要となる。

公務員 採用数減で倍率高く

三重県内の主な自治体の採用数は前年度より減少しているところが増え、平成三十年度の競争倍率は四・二七五倍と厳しいものとなって

神社関係 昨年度以上の求人状況

十一月一日現在、昨年同時期に比べ十八社四十四名増の一五六社二五四名の求人をお願いしている。神職奉職希望者に対する採用内定率は八八・八%と、昨年の七三・三%と比べると一五・五%増となっており、好調といえる。内訳は、学部生四

令和元年度実施 三重県公立学校 教員採用選考試験結果

校種・教科等	現役	既卒	皇大計
小 学 校	27	63	90
中 学 校			
国 語	0	3	3
社 会	0	3	3
保健体育	0	1	1
英 語	1	0	1
高 校			
国 語	0	2	2
地 歴	1	1	2
特別支援学校	0	4	4
合 計	29	77	106

三重県以外(現役のみ)

中学校	岐阜県(国語)	1
小学校	神奈川県	3
	静岡県	1
	愛知県	1
	名古屋市	1
	岐阜県	2
	福岡県	1
特 支	名古屋市	1
合 計		11

は三七・五%と八年連続三重県トップとなった。市町の幼保職については四日市市、鈴鹿市など六市町で七名が合格し、五市町七名については結果待ち。私立幼稚園、認定こども園等は神宮幼稚園(伊勢市)、さくら幼稚園(鈴鹿市)、津田学園幼稚園(四日市、桑名市)、明倫こども園(伊勢市)等に合格している。教職支援担当では倍率、難易度ともに高い教員採用試験に備え、低年次よりキャリアアゲダン

秋晴れの下、2年生が九州方面へ修学旅行

2年生が9月25日から3泊4日の日程で九州方面へ修学旅行に赴いた。天候に恵まれ、高校生活最大のイベントを満喫した生徒たち。平和への思いなど、それぞれに学び取っていた。



平和、原爆について学ぶ良い機会に 総務委員長 田村優我(2年7組)

何度か九州に行ったことはあるが「知覧特攻平和会館」や「長崎原爆資料館」へ足を運んだのは初めてだった。現地では写真や展示物を見てこのような惨劇を2度と繰り返してはいけないと改めて感じた。2日目の長崎伝統のペーロンを漕ぐ体験学習はとても盛り上がりを見せ、また太宰府天満宮での正式参拝は全員一緒に合格祈願ができて嬉しかった。どれも貴重な機会だったが、総務委員長としては全員が無事に旅程を終えられたことが何より良かったと思う。

31色のクラスTシャツで心ひとつに全力投球

第56回 体育大会

ここ数年天候に恵まれず順延や中止が続いていた体育大会。令和初の今年は晴れ渡った空のもと、10月1日に予定通り行われた。

足並みのそろった見事な行進で開会式からチームワークの良さを示した生徒たち。クラスごとに色の違うカラーTシャツを身に付け、むかで競争や学年対抗シークレットレース、応援合戦など、どの競技

にも全力で取り組んでいた。校友会総務副委員長の井上花音さんは「運動が苦手な人も楽しめ、また、クラスやクラブで団結し頑張ることでさらに絆が深まったのでは」と話し、「これからの行事もとても楽しみです」と語っていた。大会結果は以下の通り。

総合結果	優勝(同点)	3年6組、2年2組
	第3位	1年5組
20人リレー	優勝	2年2組
	準優勝	1年4組
	第3位	3年6組

元全日本男子バレーボール代表 山本隆弘さんが講演・指導

ポカリスエット エールキャラバン



大塚製薬株式会社が展開する高校生応援プロジェクトの一環として、10月28日、元全日本男子バレーボール代表の山本隆弘さんが来校し、講演を行った。その中でバレーボールとの出会いやバレーボールの楽しさ、挫折した時の苦しみ、新たな一歩を踏み出したことなどを話した山本さん。一流アスリートの実体験に基づく話には生徒は熱心に聞き入り、「夢を実現するために目標を持ち、それを成し遂げるために決して諦めないことが大切」等、貴重なアドバイスも得られた様子だった。



最後に山本さんを囲んで記念写真を撮り、和やかな雰囲気の中で講演会は終了。放課後にはバレー部員に直接指導をしていただき、春高バレー三重県予選を控えた部員にとってまたとない機会となった。

イングリッシュキャンプ2019報告

秋季休業中の10月7日(月)～9日(水)に、奈良県国立曽爾青少年自然の家にて『イングリッシュキャンプ2019』を実施しました。今年度は全学年から希望者27名が参加。ネイティブ講師3名も宇治山田駅出発のバスから同行して頂き、オールイングリッシュで過ごす3日間の中で、様々な実践を行いました。



英語レッスンは習熟度別に3クラスに分かれ、様々な挨拶表現やロールプレイ、身近なトピックに基づいたディスカッションも実施。講師の出身国の紹介等も通して、様々な場面で英語の実践や異文化理解を図りました。時にゲームやアクティビティなどを笑顔で楽しむ姿や、最終プレゼンテーションでは自分たちのアイデアや思いをもとに、積極的に英語で発信する姿が印象的でした。

3日間を通して英語を話す楽しさを身をもって体験し、大きな達成感や自信を得た生徒たち。今後の英語学習や異文化理解へのさらなるモチベーションアップにつなげてほしいと思います!

英語科主任 小林誠治

本校が自転車安全利用モデル校に

伊勢警察署より自転車安全利用モデル校に指定されたことを受け、10月16日に交通安全教室を実施した。

グラウンドのコースを実際に自転車で走行する講習では一人ずつ自転車に乗り、要所々々に立っている指導員の方から気を付けなければいけないポイントを教えていただいた。体育館での自転車シミュレーターを運転する体験では夜道や自転車専用道路、歩道など状況に応じた運転の仕方を学んだ。1年A組の山中美璃依さんは「止まれの線を越えてしまったり、後ろの確認を忘れてたりしたので、しっかり気を付けて乗らなければいけ

ないと感じた。踏切は自転車から降りて渡るということを初めて知ったのでしっかり頭に入れておきたい」と話し、同B組の榊原智樹さんは「警察の方に『安全に運転するために交通ルールがある』ととても大切なことを教えていただいた。モデル校にふさわしく、一人ひとりがルールを守って自転車に乗らなければいけないと感じた」と語っていた。



「家庭に感謝する日」の行事

10月30日、昭和41年以来、本校慣例の学校行事となっている教育勅語の謹書が行われた。高校・中学の全校生徒及び教職員の謹書は、後日装丁して明治神宮に奉納される。また、生徒たちはこの日までに作文を書き、感謝の思いを新たにした。(作文の一部抜粋紹介)



離れていても、一番近い存在 皇學館高校2年7組 森 叶

高校生になるまで、家族はただただ「一番近い存在」だった。しかし高校に入学すると察に入ったということもあり、一気に距離が離れてしまった。そんな生活を続けて1年半が経つ今、感じていることがある。それは、家族は離れていても心の中ではいつも「一番近い存在」ということだ。困ったときや悩んだとき、電話をすると私が納得するまで話を聞き、必ず味方でいてくれる。そんな

家族の言葉に私は何度も救われた。ご飯を作ってもらってなくても、洗濯をしてもらってなくても、私は家族の支えなしには絶対に生きていくことはできない。

今高校2年生。これから大学に進学し、社会に出て行くことになる。いつになっても素敵な家族に恵まれたことに感謝の気持ちを忘れず、またそれを言葉で、そして行動で伝えていきたいと思う。

お弁当に込められた母の優しさ 皇學館中学校2年A組 ユーリア聖那

朝起きると、母は毎日お弁当を作ってくれている。私が美味しいと言ったおかずは次の時ちょっと多めにに入れてくれたり、夏の暑い日には食欲が出るよう工夫してくれたり、お弁当から感じる母の優しさには勉強の疲れも吹き飛ばすほどの元気をもらっている。

入学して間もない頃、新しい環境に慣れず悩んでいた私に母が掛けてくれた言葉がある。「ママもまだ早起

きに慣れないけど、お弁当作り頑張るよ。冷凍食品は使ってないんだよ。気付いてくれる?」。私はそこに込められた思いに気付いた。きっとお弁当箱を私の食べ慣れた、大好きな母の味でいっぱいにして、寂しい気持ちを和らげようとしてくれたのだと思う。それからは母の作るお弁当に元気をもらって、学校生活を楽しくめるようになった。「お母さん、いつもありがとう」。

イベントカレンダー

各講座の詳細につきましては本学ホームページにてご確認ください。その他、お問い合わせは皇學館大学地域連携推進室(0596-22-8635)へお願い致します。

🕒時 📍所 (●本学 ●他) 📄料金 🎯対象 📅予約 📞問合先

10月

1 火 佐川記念神道博物館 特別展
「即位礼と大嘗祭」後期展
「大嘗祭—今に伝わる古の祭儀—」
🕒10月1日(火)~12月21日(土)
平 日 9:30~16:30 (入館は16:00まで)
土曜日 9:30~12:30 (入館は12:00まで)
※開館時間変更日・休館日あり
📍佐川記念神道博物館
📄入館料:無料 📄一般 📄不要
📞佐川記念神道博物館 0596-22-6471

12月

14 土 月例文化講座
即位礼と大嘗祭の歴史と文学
「恵み豊かな年を顧みて」
講師 ●河野 訓(学長)
🕒14:00~ 📍431教室 📄無料 📄一般 📄不要
📞地域連携推進室 0596-22-8635

21 土 令和元年度 皇學館大学研究開発推進センター
神道研究所 公開学術シンポジウム
皇位継承を考える
パネリスト ●
所 功(本学特別招聘教授・京都産業大学名誉教授・モラロジー研究所教授)
岡田 莊司(國學院大学名誉教授)
藤森 馨(国士館大学教授)
佐野真人(研究開発推進センター助教)
🕒13:30~ 📍231教室 📄無料 📄一般
📄必要(定員400名)
📞神道研究所 0596-22-6469

近鉄文化サロン阿倍野 共催講座

会場 ●近鉄文化サロン阿倍野
詳細は近鉄文化サロン阿倍野(06-6625-1771)へお問い合わせください。 **有料・要予約**

12/7 土 15:30~
1日・短期講習会
『伊勢参宮名所図会』を読む
講師 ●岡野友彦(文学部教授)

12/14 土 15:30~
日本の神々の信仰—心の琴線にふれる神社30選—
「霊山(東北・関東)」 講師 ●白山芳太郎(文学部教授)

12/21 土 15:30~
1日・短期講習会 風土記の神、人、里
講師 ●橋本雅之(現代日本社会学部教授)

1/11 土 15:30~
日本の神々の信仰—心の琴線にふれる神社30選—
「霊山(中部)」 講師 ●白山芳太郎(文学部教授)

1/25 土 15:30~
1日・短期講習会 『日本書紀』を読む
「応神天皇(1)」 講師 ●大島信生(文学部教授)

2/8 土 15:30~
日本の神々の信仰—心の琴線にふれる神社30選—
「霊山(近畿)」 講師 ●白山芳太郎(文学部教授)

2/15 土 15:30~
1日・短期講習会 三国とその後の皇帝即位
講師 ●堀内淳一(文学部准教授)

2/29 土 15:30~
1日・短期講習会 「後醍醐天皇像」を読む
講師 ●加茂正典(文学部教授)

3名が優良生徒として表彰

優良生徒として皇學館高等学校3年の大東海晴さん(前校友会総務委員長)と志村茜さん(前校友会総務副委員長)、左から大東海晴さん、志村茜さん(志村昂さんは右記「皇中祭」に掲載)

皇學館中学校3年の志村昂さん(校友会総務委員長)の3名に三重県私学協会より表彰状が贈られた。大東さんは「支えていただいた先生方、協力してもらった生徒の皆さんのおかげ」と話し、茜さんは「仲間と協力して活動できた。今回の受賞はその努力が報われたもの」、昂さんは「校友会役員の見聞を一つにまとめるのに苦労したが表彰を受けて嬉しい」と喜びを語った。校友会活動を通してますます成長し、奮闘している3人。今後の成長が楽しみである。



令和最初の学園祭が成功裏に終わる

第58回 倉陵祭

10月26日(土)・27日(日)

テーマ ●祥瑞

佳節に相応しい、テーマに恥じない倉陵祭に

倉陵祭実行委員長 松村明洋(神道学科3年)



平成最後と令和最初という節目の倉陵祭に2年連続、実行委員長として関わったことを嬉しく思います。実行委員会では新たな「令和」の時代への言祝ぎをあらわしたいと、「めでたいことが起こる兆し」との意味を持つ「祥瑞」をテーマに掲げ、「令和元年の佳節に相応しく、恥けない学祭を」との思いで取り組んでまいりました。模擬店はマスクの着用など安全衛生面の徹底を図り、忙しさやプレッシャーからビビリしがちな現場では小まめにコミュニケーションを取って、みんなで切磋琢磨しながら楽しく作業できるような気を配りました。また、有志として力を貸してくれた学生も多く、おかげでこうして無事に開催できましたこと、心から感謝いたします。

今回、人手不足から樽神輿はなくなりましたが、新たな展示も登場しています。どのような形であれ諸先輩方が受け継いできた伝統の倉陵祭を絶やすことなく、時代や状況にあわせながら盛り立てていってくれることを願っています。



●祭典

「皇學館の大学祭とは学神をお祀りして建学の精神を偲ぶ祭典である」との平田貴一初代学長のご意思を受け継ぎ、その中心となる祭典で幕を開ける倉陵祭。河野訓学長は挨拶の中で「ただ楽しいだけではなく、神様や人々に感謝できる倉陵祭に」と述べた。桑名市からやって来たという保護者は「身の引き締まるような、自ずと背筋が伸びる気持ちになりました」と話した。



●屋外ステージ

記念講堂前の屋外ステージでは邦楽部やギターマンドリン部などによる演奏をはじめ、よさこいパレード、ビンゴ大会、目隠し百人一首等、2日間にわたって多彩なパフォーマンスが行われた。



●雅楽体験

演奏体験を通じて雅楽器に興味を持ってほしいと、毎年祭典教室で行われている雅楽体験。今年も人気を博し、四日市から来た親子は「難しくて音を出すことができなかった」と初めての雅楽器演奏を楽しんでいた。



●子ども広場

倉陵会館2階にてレクリエーション部が開いた「子ども広場」ではペン立てやびよこびよこガエルを作る工作教室のほか、劇「くるみ割り人形」が開催され、大勢の親子で賑わった。

第57回 皇高祭

9月19日(木)・20日(金)

テーマ ●Let's StaRt!! ~輝かしい未来のために今この瞬間を輝こう!!~

全力で笑って、楽しんで

校友会総務副委員長 堀出萌絵(2年10組)



皇高祭を終えてまず私が感じたのは、笑い、楽しむ力の大きさでした。

吹奏楽部のミニコンサートや石井てる美さんの講演会、奥華子さんのコンサートが開催された1日目。どの場面を切り取っても全員が笑顔で、今この瞬間を楽しもうとする姿があったように思います。2日目はクラス展示や有志発表、校友会主催のビンゴゲームを行いました。ビンゴ大会は私たちが想像した以上に盛り上がり、クラス展示や有志発表会では仲間と時間をかけて作り上げたことで団結力や絆がより大きく、深くなったと感じました。

期間中、全力で笑って、楽しんでいたみんなの姿は本当に輝いていました。この思い出を胸に、それぞれが頑張りたいこと、やりたいことに突き進んでいってほしいです。来年度の皇高祭も笑顔あふれるものにできたら嬉しいです。



●祭典・吹奏楽部演奏会

1日目の会場はシンフォニアテクノロジー一響ホール伊勢。午前には厳かな雰囲気の中で祭典が執り行われ、続いて吹奏楽部の演奏が行われた。



●展示(園芸同好会)

2日目は本校にて各クラス・クラブの展示発表のほか、有志による歌、バンド、ダンスなどの発表が行われた。園芸同好会の展示ではハーバリウムづくりが行われた。

●展示(2年11組)

2年生の展示テーマは「修学旅行」。11組は新聞紙で行先の熊本城を制作。使用した新聞紙の重さは約40キロ!新聞を丸めるのにとっても時間がかかったそうだ。



第40回 皇中祭

9月22日(日)・23日(月)

テーマ ●希望の海へ突き進め! ~超える限界 創れ伝説~

“協力”のパワーを実感

校友会総務委員長 志村 昂(3年B組)



今年の皇中祭は、私が総務委員長として臨む初めての皇中祭でした。例年より約1カ月早く開催されたため、準備は夏休み前から始まりました。校友会本部役員も夏休み中に学校に集まり、皇中祭で披露する演劇の練習をしました。その活動は「協力」という言葉に相応しく、一人ひとりが出来ることに一生懸命取り組み、互いに支え合いました。緊張の中で迎えた当日、皆の笑顔を見たとき、頑張ってきたと思うと同時に、私を助けてくれた皆に感謝しました。

クラスでの取り組みも精一杯行われていました。話し合いの途中で生徒同士ぶつかることもありましたが、そのぶつかり合いがあったからこそ、最後には大きな達成感を得ることができました。クラス全員で協力して楽しく皇中祭を終えることができました。

無事皇中祭が開催され、本当に良かったです。私たちにあって最高の皇中祭となりました。



●大学よさこい部「雅」の演舞
大学よさこい部「雅」の勢いある演舞では生徒もステージに上り、一緒になって踊るなどみんなで盛り上がった。



●ブック・レビュー・バトル

クラス代表として選ばれた6名がバトルとして登壇。チャンプ本には、天野花梨さんが紹介した『小説の神様』が選ばれた。



●日本文化部

1日目、記念講堂にて行われた日本文化部によるお琴演奏。わらべ歌のゆったりした調べに、会場はノスタルジックな雰囲気包まれた。



●赤い羽根募金

校友会が行った花販売と赤い羽根募金。花販売の収益金は「令和元年台風15号千葉県災害」への義援金として寄付された。

アクティブ スチューデント

Active Student

高い志とチャレンジ精神でもって学内のみならず、さまざまなフィールドで活躍している皇學館生たち。本コーナーでは彼らの熱い思いとともに、その活動ぶりをご紹介します。

大学薙刀部 男子団体が全国3位

全国から49大学が参加した第58回全日本学生なぎなた選手権大会が8月11日、埼玉県入間市市民体育館で開催され、公開競技・男子団体において本学薙刀部が3位に輝いた。準決勝では本大会優勝校の近畿大学Aと対戦。惜しくも1-0で敗れ決勝進出は逃したものの、初の表彰台は快挙だ。試合で先鋒を務めた主将の青勇佑さん(現日3)は「これまで入賞経験がないので実感は湧かないが、とても嬉しい」と喜びを語りつつ、「3位に満足せず、団体、個人とももっと良い結果を残したい」と気を引き締める。今後について「他の大学と比べ練習量が圧倒的に少ない中、部全体、個人として今何を克服すべきかを自分たちで見つけ、集中して取り組みたい」と意欲を語った。



左から西野比呂さん(現日3)、青さん、徳平大河さん(国史3)

櫻井寿哉^(コミ3)さんが PGAティーチングプロB級に合格

櫻井寿哉さん(コミ3)さんがPGAティーチングプロB級に合格した。幼い頃からスポーツ選手に憧れていた櫻井さんは11歳でゴルフを始めツアープロをめざすも、高校時に限界を感じ、ティーチングプロへと転向。資格取得にあたっては打球練習や筋トレ、実技など多いときで6時間を費やす日もあったという。諦めない心やマネジメント力、マナー、目上の方への接し方などゴルフを通して様々なことを学んだと話す櫻井さん。「世界の頂点に立つような選手を育てられる、世界一のティーチングプロになりたい」と力強く夢を語った。



育成のプロをめざす櫻井さん

池邊龍平^(国文1)さんが ライフル射撃で茨城国体出場

「いきいき茨城ゆめ国体2019」のライフル射撃に池邊龍平さん(国文1)が出場。「立射(60発)」で25位、「伏射(60発)」で19位の結果だった。本命の立射でトラブルが発生するなど、悔いの残る試合だったと力を落とす池邊さん。全体的に日本の射撃のレベルが上がっていることも感じたといい、「下を向いている時間はない」とさらなる精進を誓う。「集中力やメンタルの強さが要求される難しさはあるが、実力が点数ではつきり出るので努力の成果がわかりやすい」とライフルの魅力を語る池邊さん。「令和3年に開催される三重とこわか国体での優勝をめざし、日本のナショナルチームに入りたい」と前を向いた。今後の活躍が楽しみだ。



木村匠汰^(国史2)さんが 日本代表投手として台湾で親善試合

10月8日から12日にかけて台湾で開催された軟式野球の親善試合に木村匠汰さん(国史2)がピッチャーとして登板した。これは木村さんが「Mizuno CUP SS SUMMER HEROES 2019」に参加した選手3500名のうち、大会優秀選手14名の一人に選出されたことを受けて。木村さんは「こんなに



チームワークが光った日本チーム

も居心地のいいマウンドは初めて。短時間で集結したチームがこれほど団結できるのは日本の良さであり、野球の魅力でもあると思う」と振り返った。さらに海外では日本のセオリーが通じず、「観察力が身に付いた」と木村さん。同時に積極性や行動力も鍛えられたと話し、「この貴重な経験を生かすには体験のままで終わらせることなく、実践、行動に移すことが大事」として、周りに働きかけていきたいと目標を語った。



佐藤茉奈^(神道1)さんが 茨城国体になぎなたで出場

9月28日から10月8日にかけて開催された「いきいき茨城ゆめ国体2019」なぎなた成年女子「試合」種目に、佐藤茉奈さん(神道1)が愛知県代表として出場した。小学校の発表会で見たなぎなた演武の凛とした姿に惹かれたのがきっかけ。高校時代は3年間国体で活躍しており、今回が初めての成年の部となった。シードで進んだ2回戦で鹿児島県に敗れ「自分の未熟さを痛感」するも、「1回1回の稽古を大切に、少年とは違う成年の雰囲気に対応できるように」と気持ちを切り替える。体の軸を意識したり、自分の心と向き合う時間をつくるなど普段から鍛錬に励む佐藤さん。なぎなたで培った集中力、先読み力を生かし、「大学生活となぎなたを両立させるのが目標」と話す。



中野優子^(高1)さんが 日本学生科学賞三重県展で 最優秀賞 三重県知事賞

第63回日本学生科学賞三重県展で中野優子さん(高1)の研究「フジノハナガイの生活史を探る」が最優秀賞・三重県知事賞を受賞した。前回の中央審査では内閣総理大臣賞を受賞し、アメリカで研究発表を行ったのは80号で既報の通り。今回は海水温の違いによって貝の活動がどう変化するかを観察。水温が10度以下になると動きが鈍くなることなどを発見した。中野さんは「何にでも興味を持つのが大切。まだ解明されていないことがたくさんある。何気ない日常でも疑問に思ったことがあったら掘り下げてみたい」と語った。



展示された研究パネル



藤本大輝^(高3)さんが 茨城国体走幅跳で8位入賞

「これまで、家族や先生方の期待に応えられなかったので、ラストチャンスで茨城国体で入賞できて本当に良かった」と茨城国体少年男子A走幅跳で藤本大輝さん(高3)が7m19をマーク。初入賞に顔をほころばせた。筋トレを行い、動画で一つひとつの動きやフォームをチェックするなど地道に練習をこなしてきた。助走合わせが最も難しいといい、さらなるレベルアップのため、「100m10秒台の走力」「安定した助走」を自らに課す。次なる目標は「全国入賞常連選手となり、全国優勝すること」。さらなる飛躍に期待したい。



山田真大^(高1)さんが 110mハードルで国体初出場

山田真大さん(高1)が110mハードルで茨城国体に出場した。予選3組に登場し、14秒61で5位フィニッシュ。決勝進出はかなわなかったが、「ゴールするまで何が起こるかわからないのがハードル。最後まで諦めない心を学んだ」と前向きに話した。「今回は三重県に貢献できなかったのが、1年間練習して来年こそは上位入賞できるように頑張りたい。高校3年生のとき三重県でとこわか国体が開催される。そこで優勝して、インターハイ、国体、日本ユースの3冠を狙う」と山田さん。目標に向かって、練習あるのみだ。



【訂正とお詫び】80号12面に掲載された中野優子さんの氏名の表記に誤りがありました。ここに訂正し、お詫びいたします。●裕子 → ●優子